

平成 28 年度 事業報告書

2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 3 1 日



滝野自然学園 / たきの森のがっこう (11/19～11/20 実施)



公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会

目次

I. 平成 28 年度 総括	1
II. 経営理念	2
III. 事業報告	
1. 事業実施状況	
2. 施設管理運営	
3. 事業実施報告概要（事業区分別）	3
4. 部門別（各施設）重点目標及び数値目標の達成状況	5
5. 各課（各施設）事業実施報告	
(1) こども育成課（指定管理事業：児童会館 104 館） （受託事業：ミニ児童会館 97 館、放課後子ども館：3 館）	14
(2) こども劇場課（指定管理事業：やまびこ座・こぐま座）	17
(3) 企画事業課（指定管理事業：若者支援施設 5 館）	21
(4) 企画事業課（地域活動等事業：野外活動系事業） （自主事業：滝野自然学園）	24
(5) 野外活動課（指定管理事業：北方自然教育園）	25
(6) 野外活動課（指定管理事業：定山溪自然の村）	26
(7) 野外活動課（指定管理事業：青少年山の家）	28
(8) 市民参画課（指定管理事業：札幌エルプラザ公共 4 施設）	30
(9) 企画事業課（地域活動等事業：自主事業・受託事業）	34
6. 重要な契約に関する事項	36
7. こども基金（スマイルキッズ）協力者・助成対象一覧	
IV. 事務報告	37
1. 設立年月日	
2. 定款に定める目的	
3. 定款に定める事業内容	
4. 事務所の状況	
5. 役員等に関する事項	
(1) 理事 (2) 監事 (3) 評議員	
6. 職員に関する事項（事務局組織図）	40
(1) 主要な職員 (2) 職員数	
7. 会計に関する事項	41

I. 平成 28 年度 総括

当財団は、飛躍的とも言える事業規模・組織規模の拡大を遂げており、これに伴い年間の財務規模も直近の5年間で35パーセント程度増加している。しかし、その要因の多くは、外部からの事業受け入れに対応した結果であり、主体的な事業への取り組みは、まだ少ない状況にある。

今後、人口の減少とともに少子高齢化が益々進行し、社会構造自体の変化が確実に視される中、当財団が将来に向けて安定した経営を続け、組織を進化・発展させながら社会から必要な存在と認知され続けるためには、自らが進むべき道を選択し、全職員がこの目標に向けて努力していかなければならない。

平成28年度は、これらの長期的な課題の解決を目的に「経営企画室」を専門部署として設置したほか、当財団の将来を担う人材を質・量ともに確保し、組織力を生かした事業展開を行うため、こども育成課と若者支援事業担当課を統合し「こども若者事業部」とするなど、新年度に向けた組織体制の再整備を機関決定して、未来に向けて積極的な取り組みを行ってきた。

また、組織の急速な拡大は、人材育成・労務管理・職員確保と定着・内部管理体制の整備など様々な課題を生み、これらの課題に対処する必要にも迫られる状況にあるが、経営基盤の強化を図る着実な取り組みの先には、安定化という成熟した果実が得られるものと信じて弛まぬ努力を行っていかねばならない。

これまで先人たちが築き上げてきた伝統を継承し、新たな飛躍を担うのは、私たち職員一人一人の力である。

当財団の果たすべき役割を自らに問いかけながら、来たる時に向けて助走し続ける私たちでありたい。



II. 経営理念

「人とのつながりによる魅力あふれる未来社会の創造」

III. 事業報告

1. 事業実施状況

平成 28 年度 事業基本方針	
1	既存事業を強化するための戦略的投資
2	公益事業の拡充
3	コンプライアンス意識の向上と組織体制の整備
4	人材の確保と人材育成
5	経営基盤の強化

2. 施設管理運営

(1)自主事業 2 施設

- ・ 滝野自然学園
- ・ 岩見沢地域若者サポートステーション

(2)指定管理事業 115 施設

- ・ 若者支援施設 5 施設
- ・ 児童会館 104 施設
- ・ 青少年山の家 1 施設
- ・ 定山溪自然の村 1 施設
- ・ 北方自然教育園 1 施設
- ・ 札幌エルプラザ公共4施設 1 施設
- ・ こども劇場 2 施設

(3)受託事業 100 施設

- ・ ミニ児童会館 (97 施設)
- ・ 放課後子ども館 (3 施設)



3. 事業実施報告概要（事業区分別）

【定款第4条】 (1)青少年の健全育成と社会参加に関する事業

(2)社会教育の推進に関する事業

公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

こども育成事業

(1)児童会館及びミニ児童会館事業

・青少年活動支援事業 ・体験機会創出事業 ・人材育成事業

・施設管理運営事業 等

(詳細P.14)

(2)こども劇場やまびこ座・こぐま座事業

・人材育成事業（一般対象、こども対象） ・体験機会創出事業

・地域連携事業 ・施設管理運営事業 等

(詳細P.17)

(3)地域活動等事業

・学習支援事業

(詳細P.35)

若者自立支援事業

(1)若者支援施設事業

・自立支援事業 ・受託事業 ・体験機会創出事業 ・人材育成事業

・地域連携事業 ・調査研究事業 ・施設管理運営事業

(詳細P.21)

(2)地域活動等事業

・自立支援事業 ・受託事業

自然体験活動事業

(1)滝野自然学園事業

・体験機会創出事業 ・職員派遣事業 ・人材育成事業 ・情報発信事業

・団体支援事業 ・施設管理運営事業

(詳細P.24)

(2)北方自然教育園事業

・体験機会創出事業 ・地域連携事業 ・学習支援事業 等

(詳細P.25)

(3)定山溪自然の村事業

・体験機会創出事業 ・地域連携事業 ・学習支援事業 ・人材育成事業

・施設管理運営事業

(詳細P.26)

(4)青少年山の家事業

・体験機会創出事業 ・人材育成事業 ・団体支援事業

(詳細P.28)



【定款第4条】 (3) 市民活動の振興に関する事業

公2 男女共同参画をはじめとする市民活動の振興等に関する事業

市民活動振興事業

札幌エルプラザ公共4施設事業

- ・活動支援事業
 - ・人材育成事業
 - ・職員派遣事業
 - ・地域連携事業
 - ・情報発信事業
- (詳細 P. 30)

【定款第4条】 (4) その他法人の目的を達成するために必要な事業

収1 イベント・物品貸与等事業

- ・民間企業等から受託したイベント
企画運営等事業
- ・物品貸与等事業



他1 札幌エルプラザ等施設管理運営、 公益目的外での施設貸与等事業

- ・札幌エルプラザ公共4施設、
定山溪自然の村、青少年山の家
の管理運營業務
- ・こども劇場、若者支援施設における
公益目的外での施設貸与事業



4. 部門別（各施設）重点目標及び数値目標の達成状況

こども育成課・児童会館管理課

児童会館・ミニ児童会館



公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

重点目標	数値目標
<p>【地域活動等事業】</p> <p>①札幌まなびのサポート事業への取り組み 効率のよい体制づくりや参加中学生を中心に、家庭や中学校を含めた外部機関との連携強化、類似事業実施団体等との情報共有などより広い視野をもって事業を展開する。</p> <p>【施設運営等事業】</p> <p>①労務管理システム導入に向けた取り組み 有期雇用職員の採用にかかる個人データの管理をはじめ、常勤職員の保有資格や研修履修記録、異動履歴等の管理が可能。これらのデータを一元管理するシステムを構築することにより、よりスムーズな採用事務や効果的な職員の配置・育成計画および的確な労務管理を行う。</p> <p>②見守りシステムの新機能（児童来館通知システム） 平成28年度においては、児童クラブ員の出欠状況など統計処理機能を追加予定。クラブ員の増加が続く中、相当の時間をかけて行っている作業であるが、自動化することで、職員が児童や保護者と向き合える時間を確保し、丁寧な対応につなげる。</p>	<p>①グループワーク 子ども運営委員会の活動報告（おたより・パネル展）を地域に向けて年1回以上実施する。</p> <p>②ケースワーク 親子交流事業を年1回以上実施する。</p> <p>③コミュニティワーク パネル展を各区1回以上実施する。</p>
<p>【達成状況】</p> <p>【地域活動等事業】</p> <p>学習だけでなく、日常活動においてもさまざまなプログラムを展開し、自己肯定感を高める仲間づくりを進めた。週1回の時間を励みにしている中学生も多く、各会場の出席率も上がった。キャンセル待ちに対応するため、児童会館ばかりでなく若者活動センターや総務課の会議室などの課を越えた施設も会場として実施した。また、学習支援サポーターもこの活動に熱心に取り組んでおり、学内で自身の活動成果を発表したりと、大学生自体の成長にも繋がった。更に外部機関との連携強化を図るため、若者活動センターとのつながりがある他都市の類似事業実施団体との情報交換をする中で今後の事業展開や会場運営の参考とした。</p> <p>【施設運営等事業】</p> <p>①当課の労務管理に必要な情報を網羅した項目を有し、かつ総務課と連動可能なシステムを導入した。 職員の基本情報をはじめ、保有資格、研修受講履歴等の一元化を行った。複数情報の確認作業等の削減、異動履歴や休務情報などの蓄積等、活用の幅を広げ更なる効率化につなげる。</p> <p>②平成28年度中のシステム保守により、保護者登録メールの不着が一日500件程度発生していることが判明したため、今年度については保護者自身が情報登録できる機能を追加し、メールの不着防止に努めた。情報登録機能について、より使用しやすいようにさらに検証を行う。児童クラブ登録数が約1万7千人（6/1現在）となっているため、システムを利用する多くの保護者に情報登録機能を活用いただけるよう丁寧な説明を行うことのできる周知方法を整理し進めていく。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>①地域に向けた子ども運営委員会の活動報告（おたより・パネル展）実施 実施済 201館 / 201館中 達成率 100% 世代間交流事業 242件 地域交流事業 403件実施 参加総数 69,884人 実施館 = 198館 / 198館中 達成率 100%</p> <p>②親子交流事業の実施 実施済 201館 / 201館中 達成率 100%</p> <p>③パネル展を各区で実施 実施済</p> <p>10区 / 10区中達成率 100% 実施館 = 198館 / 198館中 達成率 100%</p>



公 1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

収 1 イベント・物品貸与等事業

他 1 目的外での施設貸与等事業



重点目標	数値目標
<p>【地域活動等事業】 ①地域社会における文化的役割と意義</p> <p>【施設運営等事業】 ①人材育成と創造型の劇場運営 ②利用者の目線での施設運営 ③児童文化の発信基地及び文化施設としての役割の明確化 ④最小経費で最大効果を</p>	<p>①年間上演日数 120 日 ②年間公演数 200 回以上 ③新規人形劇団の誕生、育成 3 団体以上 ④年間利用者数 やまびこ座 55,000 人 こぐま座 15,000 人 ⑤利用者満足度 85%</p>
<p>【達成状況】 【地域活動等事業】</p> <p>こぐま座が開館 40 周年を迎え、「開館記念祭かもくま祭」他、様々な特別記念公演や事業を実施した。初の試みとして、こぐま座・やまびこ座がプロデュースし育成をしている子どもたちが中心となり、専門スタッフと共に「野外巨大人形劇ピノキオ」を制作、上演した。プロと協働で一つの作品を作り上げていく中で、出演した子どもたちの技術向上に繋がり、札幌の人形劇のレベルアップに大きく貢献した。また、多くのメディアにも取り上げられ、こぐま座の文化的役割を多くの市民に周知する機会となった。</p> <p>【施設運営等事業】 ①夏・春の特別公演をはじめ、文化庁補助事業としてオホーツク文化を題材とした「プロデュース人形劇」、演劇に関する育成事業「プロデュース公演」など多彩なプログラムを提供することが出来た。また、事業の広報宣伝として web 広告や新聞へのチラシ折込など新たな方法に挑戦し、集客増へ繋がった。</p> <p>②こども育成課との連携事業「人形劇クラブの指導および育成」の実施や、人材育成事業が実を結び、新規劇団の育成や既存劇団が活性化した。また、日頃から人形劇について指導、助言ができる職員体制作りに努め、協働してより良い作品を作ることができた。</p> <p>③児童文化の発信基地として、福島支援人形劇公演、元町北小学校アウトリーチ事業や砂川人形劇創作体験事業、プロデュース人形劇の巡回公演を実施した。人形劇の公演や指導を通じて、外へ目を向けた積極的な文化発信を実施することで、児童文化の普及や裾野拡大に繋がった。</p> <p>④最少経費で最大効果を生むことを目指し、経費の削減、公的助成の積極的な活用、サポーター事業を通じて個人や企業の協賛を得て事業予算確保に努めた。今後も財団内及び関係諸機関との連携を促進し、効果的な共同事業の実施や広報活動を図り、最大効果を目指していく。</p>	<p>【達成状況】 【やまびこ座】</p> <p>①年間上演日数 144 日(120%) ②年間公演数 207 回(103.5%) ④年間利用者数 61,920 人(112.6%) ⑤利用者アンケートの 総合満足度 85%以上 99%</p> <p>【こぐま座】 ①年間上演日数 158 日(131.7%) ②年間公演数 237 回(118.5%) ③新規人形劇団の誕生、 育成 3 団体以上 5 団体 ④年間利用者数 20,881 人(139.2%) ⑤利用者アンケートの 総合満足度 85%以上 98%</p>



公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

収1 イベント・物品貸与等事業

他1 目的外での施設貸与等事業

重点目標	数値目標
<p>「地域若者サポーターとの協働から協働へ」 これまでは、地域若者サポーター（基本構想で定義：利用者 OB や各施設の地域で若者の活動をサポートしていただける方）と事業の企画段階での協働に取り組んできた。 平成 28 年度は事業の企画段階のみならず、共に若者を育てるパートナーとして中長期的に協働を目指し、様々な“協働の形”を試行・実践していく。 ※地域若者サポーター登録目標人数 全館合計 100 人（総合 20 人、アカシア 15 人、ポプラ 25 人 豊平 20 人、宮の沢 20 人）</p> <p>「若者との継続した関わりづくり」 施設の内外で若者と出会い、継続的に関わる機会を創出する。単発のイベント参加や一過性のロビーワークに終わることなく、若者の成長に寄り添っていく。その過程を通じて若者のニーズ把握や実践の記録・蓄積、サポーターとの協働を実現する。</p>	<p>①利用証の発行を受けた若者数 13,920 人以上</p> <p>②若者登録者の延べ利用数 192,000 人以上</p> <p>③自立支援の新規相談登録者数 札幌 400 人以上、岩見沢 100 人以上</p> <p>④進路決定及び最適な支援機関につながった困難を有する若者数 札幌 320 人以上、岩見沢 70 人以上</p> <p>⑤登録若者団体数 415 団体以上</p> <p>⑥地域活動サポーターと共に企画した事業に参加した若者の延べ人数 5,800 人以上</p>
<p>【達成状況】</p> <p>①職員が、ロビーワークに重きを置きながら日々若者と関わり、さらに、実践の記録やケース検討、研修等による内部研鑽を行ったことにより、継続的かつ専門性をもって若者を支援することができた。また、若者の視点から施設モニタリングを行い、改善点や改修箇所に関する意見や要望を取り入れ、施設運営に対する参画意識を育むことができた。一人ひとりの若者に必要な関わりを中・長期的視点から見立て、今後も関わりの充実化を図っていく。</p> <p>②一過性の大規模イベントよりも、小規模密着型の関わりに重点を移行したことで、サポーターの登録人数や、サポーターと共に企画した事業への参加者数といった「数」だけでなく、地域若者サポーターとの関わりを深めながら取り組むといった「質」においても成果が表れた。今後は、事業のあらゆる局面で、地域住民や活動団体、専門機関等、多様な人々と協働できるよう、Youth+の取り組みを開いていく必要がある。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>①利用証の発行を受けた若者数 13,980 人（100.4%）</p> <p>②若者登録者の延べ利用数 204,857 人（106.7%）</p> <p>③自立支援の新規相談登録者数 合計 455（札幌 369、岩見沢 86） （91.0%）</p> <p>④進路決定及び最適な支援機関につながった困難を有する若者数 合計 374（札幌 319、岩見沢 55） （95.9%）</p> <p>⑤登録若者団体数 460 団体（110.8%）</p> <p>⑥地域活動サポーターと共に企画した事業に参加した若者の延べ人数 5,766 人（99.4%）</p>

公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

重点目標	数値目標
<p>【事業】</p> <p>①市民のニーズをとらえたプログラムデザインによる事業実施</p> <p>②財団内の野外教育施設連携での事業運営による新たな価値の創造</p> <p>【管理】</p> <p>①計画的な施設の維持管理</p> <p>②裏山を中心とした活動フィールドの整備</p>	<p>〈利用人数〉 延べ6,195人</p>
<p>【達成状況】</p> <p>【事業】</p> <p>通年事業については、着実に認知度を高めており事業趣旨の興味や理解も深まっている。また、新規事業として「『RERA DOKIDOKI SUMMER CAMP2016』業務」を受託（契約先：千歳アウトレットモール・レラ）。キャンプ活動の指導を一般向けに実施するなど、実績も重ねている。</p> <p>【管理】</p> <p>安全管理のため、都度不具合を点検。経年劣化による軽微な修繕を実施した。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>〈利用人数〉 延べ6,913人 (111.6%)</p>



公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

重点目標	数値目標
<p>【地域活動等事業】</p> <p>①自然散策活動を手法とした地域資源の活用 ②事業連携等を通じた地域との関係づくり ③市民ボランティア自主的活動の充実と研修等を通じたボランティア活動の支援</p> <p>【施設運営等事業】</p> <p>①施設内及び園内の環境整備の徹底 ②自然環境情報及び施設PRのための情報発信の強化 ③施設内外における情報提供を充実し、学習館入館（観覧）利用増を図る ④市民ボランティア及び事業協力者と協働した事業展開 ⑤冬季来園者に向けた事業プログラムの開発 ⑥部内各施設（青少年山の家、定山溪自然の村、滝野自然学園）との連携による人材育成</p>	<p>①学習館入館者（観覧）の増加 一般来園「大人」 3,500人 うち有料入場者数 1,300人 150,000円 (@100×1,500人)</p> <p>②貸室利用20%増（利用料金等） 35,000円</p>
<p>【達成状況】</p> <p>【地域活動等事業】</p> <p>冬季実施の自然ハイキング事業については、北方自然教育園の周辺地域は自然観察に適しており、参加者からも好評を得ているものの、目標とする定員を下回る参加状況である。アクティブシニア層など潜在的なニーズはありと考えられるが、広報不足などにより参加者獲得には至っていない。</p> <p>【施設運営等事業】</p> <p>主要な利用対象である小学校に対しての体験の場および生物教材等については安定的に提供できた。参加校からは概ね良好な評価をいただいているとあり、継続参加のニーズも高い状況にある。</p> <p>農業が主体である当該施設の特徴を活かした主催事業については、市民の方からのニーズが高いだけでなく、環境教育や食育などとも親和性が高いことから実施意義のある事業として定着しつつある。</p> <p>ボランティア事業については自己実現という側面において、使命を果たすことができていると考えられるが、今後は協働事業等の拡大により市民の方が参画できる機会の創出が必要と考えられる。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>①学習館入館（観覧） 2,637人（75.3%） うち有料入場者数 1,117人（85.9%）</p> <p>入場料100,700円 (@100×1,007人)</p> <p>②貸室利用（利用料金等） 6,000円（17.1%）</p>



公 1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

他 1 目的外での施設貸与等事業

重点目標	数値目標
<p>【地域活動等事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①自主事業の発展 ②発展的事業の推進 <p>【施設運営等事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①貸室事業におけるサービスの質的向上 ②初心者のための野外活動支援強化 ③市民の企画による自然体験事業支援の推進 ④広報活動の積極的な推進及びビジターコーナーの強化 ⑤能力・専門性を高めるための研修強化 ⑥部内各施設（青少年山の家、北方自然教育園、滝野自然学園）との連携による人材育成 	<ul style="list-style-type: none"> ①平日の施設利用者数の増加 611件 ②ボランティアの主体的活動実績の増加 505件
<p>【達成状況】</p> <p>【地域活動等事業】</p> <p>自主事業「定山溪・ウィンター・キャンプフェスティバル」では外部団体（民間企業含む）との協働により事業領域および対象の拡大を図ることができた。</p> <p>自然散策やハイキングなどシニア層を対象とした事業については、健康増進および社会参加の機会を積極的に提供することができた。</p> <p>【施設運営等事業】</p> <p>新規事業として実施した「インタープリターズキャンプ」等活動協会の強みを活かした連携事業については、継続した取り組みとして平成29年度も注力していく。また、地縁組織との連携事業についても事業化を行うことができた。これらの取り組みにより他では得難い人的ネットワークやノウハウを獲得することができた。</p> <p>貸室業務に係るサービスの見直しを行い衛生環境の向上を図った。受付システムの本格稼働を柱とし、今後も安定的な施設運営およびサービスの強化を行い公共施設としての有用性を高めていく。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①平日の施設利用者数の増加 709件（116%） ②ボランティアの主体的活動実績の増加 419件（82.9%）



重点目標	数値目標
<p>【施設運営等事業】</p> <p>①地域との連携強化 滝野町内会・連合町内会、滝野公園管理者など近隣地域との連携をさらに強めていくとともに、地域資源を活用したプログラム開発を行い、地域と協働しながら施設運営に取り組む。</p> <p>②ボランティアスタッフの育成 『ボランティアスタッフ間による育ちあい』、『自主運営』、『新規ボランティアの発掘と育成』の3つをテーマに、新たなボランティア活動のしくみを作り上げていく。</p> <p>③人材育成 施設内研修はもちろん当財団の野外施設部（札幌市定山溪自然の村、札幌市北方自然教育園、札幌市滝野自然学園）として、次世代を担う高い専門性をもった職員を育成していく。施設間での連携を図ることで経費や資源の有効活用を図る。また、スケールメリットを生かし活動協会他施設との連携事業を行い、その中で職員の経験値をあげていく。</p> <p>④管理 さまざまな利用者が、より安全に施設を使いやすくするため、設備の充実や修繕を行う等、管理計画を立案する。</p>	<p>①利用人数 75,100人</p> <p>②実利用人数 38,600人</p> <p>③利用満足度 80%以上</p>
<p>【達成状況】</p> <p>【施設運営等事業】</p> <p>①地域との連携強化 滝野公園管理者との連携による滝野町内会の住民の公園内ツアーの実施や滝野神社祭の協力など、積極的な関わりによって少しずつだが関係の強化が進んでいる。運営協議会での意見交換により芸術の森連合町内会会長からの情報提供もあり、市立大学との連携への足掛かりができた。滝野公園との共催事業の継続的な実施や、施設運営業務における定期的な打合せの実施など随時連携を図っている。</p> <p>②ボランティアスタッフの育成 新たな活動分野開拓や活性化に向け、年に数回のボランティア集会を開催し、ボランティア間の交流を促進したほか、ボランティアに向けた情報発信を行った。他者との関わりにより、活動意欲の向上や新しい取り組みに発展することを期待し、働きかけを行っている。</p> <p>③人材育成 LGBTに関する研修、環境に関するEMS研修、また、インタープリターズキャンプなど活動協会内で連携した研修会を実施し、時代のニーズに合った施設運営を目指して多様な研修実績を残した。外部機関（CISEネットワーク、ESD推進事業、北海道青少年教育施設協議会）への積極的な参加により、多様な視点に基づいた事業の在り方を学ぶ機会を得た。</p> <p>④管理 利用者の声を反映させ、一部研修室の壁をパーティションにする改修工事を実施したほか、ふれあい広場回廊の危険個所の修繕を行い安全確保に努めた。これらも含め、所管部局（市教委生涯学習推進課）と相談をしながら、施設老朽化による修繕計画を立てて実施している。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>①利用人数 74,134人 (98.7%)</p> <p>②実利用人数 43,871人 (113.7%)</p> <p>③利用満足度 91.4%</p>

公2 男女共同参画をはじめとする市民活動の進行等に関する事業

他1 目的外での施設貸与等事業

重点目標	数値目標
<p>【地域活動等事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民ニーズを捉えた利便性の向上と札幌市や国の施策を反映した事業の実施。 <p>【施設運営等事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設管理における施設・設備を良好に維持するため、日々および計画的なメンテナンスを行う。 各分野の拠点施設として、将来を見据えた事業展開を行う。 	<p>①男女共同参画センター 男女共同参画の啓発事業回数 65回</p> <p>②市民活動サポートセンター 研修学習事業（講座）定員充足 80% 相談件数 900件</p> <p>③環境プラザ 事業で連携する団体数 40団体</p> <p>④情報センター 各分野の活動支援団体の情報受 発信支援（共催・協力事業等） の実施 20団体</p> <p>⑤4施設全体 施設総利用者数 年間 700,000人</p>
<p>【達成状況】</p> <p>【地域活動等事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「コワーキングスペース」（札幌市委託事業）を拠点としたチャレンジ事業、北海道内の女性起業家支援機関・団体をネットワーク化する「北海道女性起業家支援ネットワーク事業」（経済産業省委託事業）を実施することができた。 利用者からの要望に応え設置した、カップ式やSAPICA等の電子マネー対応の自動販売機、椅子貸出については前年度とほぼ横ばい、インターネット（wi-fi）貸出については、前年度比約2倍の収益となり、市民サービスの向上につなげることができた。 <p>【施設運営等事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 建物や付帯設備の経年劣化による故障が多く見られたが、予備機材や応急処置によって対応することができた。また、軽微な破損や損傷は、可能な限り職員が修理をする等、迅速に対応し利用者へのサービスの低下につながらない配慮と工夫を行った。今後は中長期的な展望を見据えた修繕計画を所管局と協議していきたい。 「女性ためのキャリア支援事業」（男女）、「市民活動団体等へのスタート支援」（市民）、「環境関連団体とのコーディネート事業」（環境）の土台を構築することができた。今後については、若年層など次世代育成を念頭に置いた取り組みを進めるとともに、国（内閣府、経済産業省等）や関係機関などとのネットワークを生かし、指定管理業務と受託業務等を有効に活用した事業展開を図っていききたい。 	<p>【達成状況】</p> <p>①男女共同参画センター 男女共同参画の啓発事業回数 65回（100%）</p> <p>②市民活動サポートセンター 研修学習事業（講座） 定員充足率 87.1% 相談件数 482件（53.6%）</p> <p>③環境プラザ 事業連携団体 41団体 （102.8%）</p> <p>④情報センター 各分野の活動支援団体の情報受 発信支援の実施 12団体 （60%）</p> <p>⑤4施設全体 施設総利用者数 649,590人 （92.7%）</p>

公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

収1 イベント・物品貸与等事業

重点目標	数値目標
<p>①新規事業・クライアントの開拓 ②当協会保有備品・物品の有効活用と適正な管理 ③事業推進に必要な職員（人材）の育成</p>	<p>①イベント事業収益 総額 7,000 万円以上</p> <p>②コスト管理 各事業単体における 実収益率 35%以上の確保</p>
<p>【達成状況】</p> <p>①新規事業として「白石区複合庁舎オープンイベント」（主催：白石区役所）、「UHB みんなの収穫祭」（主催：北海道文化放送）を受託。地域を中心とした賑わうまちづくり事業へと貢献した。</p> <p>②保有物品を都度再点検し、適切に維持管理。物品貸与にあたってニーズに的確に応えると同時に幅広く事業を展開する提案も行うことができた。</p> <p>③各職員が、世間や時代の流れに呼応するよう「アンテナ」を張り、事業趣旨や企画案がより魅力的になるよう工夫するよう努めた。また、事業実施に必要な実務的なスキルを着実に習得し、円滑な進行の基盤づくりへと繋げることができた。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>①イベント事業収益 総額 8,162 万円(116%)</p> <p>②コスト管理 各事業単体における 実収益率 35%以上を達成</p>



5. 各課（各施設）の事業実施報告

（1）こども育成課【指定管理事業：児童会館 104 館】

【受託事業：ミニ児童会館 97 館／放課後子ども館 3 館】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
青少年活動 支援事業	<p>「子育てサロン」</p> <p>乳幼児と保護者に対する子育て支援事業。常設サロンを含め実施回数が増える中で、保護者や地域ボランティアとの関係性も深まり、地域から必要とされる場として定着している。</p>	<p>97 館 8,208 回</p> <p>保護者 137,211 人</p> <p>幼児 156,791 人</p>
	<p>「放課後児童クラブ事業」</p> <p>留守家庭児童の放課後の居場所として、適切な遊び及び生活の場を与え、子ども自身の状況や発達段階を踏まえながら、児童たちの健全な育成を図った。</p>	<p>児童クラブ在籍数</p> <p>15,794 人</p> <p>延べ登録数</p> <p>18,580 人</p>
	<p>「中・高校生夜間利用等運営事業」</p> <p>中高校生の居場所づくりとして週 2 回夜 9 時まで開館時間を延長する「ふりーたいむ」を実施した。またポスター図案を募集するポスターコンテストを実施し、市民への認知度を高めることができた。</p>	<p>実施館：101 館</p> <p>中学生 25,660 人</p> <p>高校生 35,361 人</p> <p>ポスターコンテスト 総応募数 69 作品</p>
体験機会 創出事業	<p>「伝統芸能活動」</p> <p>札幌市内各地域で使用されている神輿を一堂に集めパレード形式で神輿担ぎを体験する事業。各地域の神社に奉納されている多数の種類のお神輿を間近で感じるとともに法被を着用し実際に担ぐ体験ができる貴重な機会となった。北海道祭実行委員会との連携事業とすることで、バスでのルート送迎が可能となり、神輿担ぎ体験の他にも公園の散策などの館外活動を組み合わせて夏休みのお出かけ事業として実施している会館も見られた。</p>	<p>8/6</p> <p>303 人（21 館）</p>
	<p>「東区多世代交流事業」東区地域振興課共催事業</p> <p>地域に開かれた児童会館を目指し、多世代交流事業として味噌作りを実施した。町内会や老人クラブをはじめとした、地域住民や児童会館利用者家族などが参加し、味噌作りでの学びをとおり、楽しみながら交流が図られていた。</p>	<p>10/29・11/19</p> <p>57 人</p>
	<p>「地域活動事業」</p> <p>山鼻児童会館で保護者や地域住民に参加を促し「スノー&アイスキャンドル」を実施した。職員が作り方を伝えながら一緒に作り上げた。</p> <p>地域住民と今まで以上に子どもに関する情報交換なども頻繁に行われるようになった。</p>	<p>2/11</p> <p>61 人</p>

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
体験機会 創出事業	「げんキッズフェス 2017」 各児童会館でのこども運営委員会が中心となり日ごろの活動の成果を発表し来場者と一緒に活動を楽しめる内容でステージ・仕事体験・模擬児童会館活動の体験や展示などを展開した。 この他に被災地支援活動や中高生夜間利用・プルタブプロジェクトなどの活動の成果発表も行った。	2/26 4,500人
	「野外・自然体験活動事業」 みすまい児童会館で近隣地区にある NPO 法人「風の学校」の協力を得ながら、四季をとおして農業体験を行った。畑の土おこし、田植え、雑草抜き、収穫、冬の畑での越冬野菜の収穫などを行い、開館 20 周年事業では、自分たちで作ったお米を記念品として参加者に配った。	6月～2月 延べ 83人
	「リーダー育成事業『クラブ活動』」 各児童会館において多くのクラブ活動が実施された。クラブ活動をとおして、児童自身の責任感と仲間意識を育み、リーダーの育成に取り組むことができた。	クラブ活動実施数 延べ 5,299回 参加人数 延べ 71,171人
	「子ども運営委員会」 児童自身の自主性や創造性を生かし、主体的な活動の充実を図るため、全児童の意見を反映した活動の場となることを目指して、全館で取り組んだ。会館のルールづくりやイベントの企画にも積極的に関わり、児童たちの成長が図られた。	201 館(全館実施) 延べ 2,572人



平成 28 年度 札幌市児童会館（104 館）およびミニ児童会館（97 館）利用状況

利用状況

(人)

区分	開館日数 及び回数 (延べ数)	人数	利用人数の内数					
			幼児	低学年	高学年	中学生	高校生	一般
児童会館	30,779	2,341,388	231,243	1,290,057	359,782	92,603	55,747	311,956
ミニ児童会館	28,589	1,403,943	6,596	1,131,199	241,908	1,234	871	22,135
占用利用	11,582	175,785	7,909	32,839	36,814	26,477	4,118	67,628
総利用		3,921,116	245,748	2,454,095	638,504	120,314	60,736	401,719

総利用人数(前年度3,748,955人・前年比 104.5%)

(児童クラブ在籍数)

(人)

区分	平成28年4月末日現在の在籍数							延べ 入会	延べ 退会	平成29年3月末日現在の在籍数						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計			1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
在籍人数	4,740	4,463	3,337	1,964	831	317	15,652	18,580	2,786	5,194	4,546	3,193	1,836	737	288	15,794

4月末日現在の在籍数の比較(前年度14,135人・前年比110.7%)

(学校からの直接来館届出数)

(人)

区分	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
クラブ員の兄妹	0	5	40	120	152	109	426
特別支援学級等	1	6	2	8	7	3	27
特認校	28	20	22	8	13	4	95
その他	0	2	2	0	1	1	6
計	29	33	66	136	173	117	554

(前年度637人・前年比86.9%)

(障がい児受け入れ数)

(人)

区分	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	内訳	
								クラブ	直来
普通学級	110	106	102	58	48	19	443	361	82
特別支援学級	64	64	55	69	60	31	343	195	148
特別支援学校	0	3	1	6	2	2	14	2	12
計	174	173	158	133	110	52	800	558	242

(前年度730人・前年比109.6%)



(2) こども劇場課

①やまびこ座

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
人材育成事業 (一般対象)	<p>「砂川人形劇創作体験プログラム」</p> <p>砂川市地域交流センターゆう（NPO 法人ゆう）の主催事業である「人形劇講座」（子ども対象、大人対象）に対して講師の派遣、指導を行った。劇団育成、人形劇による地域活性化、人形劇の普及に大きく貢献した。</p>	<p>5/29～3/20</p> <p>延べ 750 人</p>
	<p>「東区市民劇団育成事業」</p> <p>地域に根ざす市民劇団の育成を行った。旗揚げ 9 年目の東区市民劇団オニオン座を対象とし、表現等ワークショップをとおして、児童劇の作品創りを行った。また、東京から講師（能楽師）をお招きし、特別ワークショップを実施した。</p>	<p>5/24～10/19</p> <p>延べ 495 人</p>
人材育成事業 (こども対象)	<p>「人形劇クラブの指導および育成」</p> <p>劇場の専門性を活かし、各児童会館で実施する人形劇クラブなどの指導や育成に協力し、取り組むことで、子どもたちの新たな可能性を引き出し、児童会館職員の新たなスキルの構築にもつなげた。</p> <p>「第 45 回札幌人形劇祭」へ、指導に携わった 3 館が上演参加した。その内新琴似南小ミニ児童会館は優秀賞、札幌児童会館は奨励賞を受賞した。</p>	<p>4/20～3/24</p> <p>延べ 678 人</p>
体験機会創出 事業	<p>「やまびこ座、こぐま座プロデュース人形劇『北海道の人形劇シリーズ Part3』巡回公演」</p> <p>劇場がプロデュースし、より質の高い人形劇作品の創造に努めた。</p> <p>『北海道の人形劇シリーズ』と題して、北海道の各地域に伝わる民話などを題材とし、子どもたちに北海道の歴史や文化への理解を深めてもらうことを目的とした。スタッフには専門のアーティストを配し、札幌で活動するアマチュア人形劇団と協働し作品創造に取り組んだ。</p> <p>網走市では「OKHOTSK～終わりの楽園」を公演。題材となるオホーツク文化発祥の地での公演を実施した。稚内市では平成 27 年度に創作した「モイモイ・オーシャン・パラダイス」を公演し、やまびこ座・こぐま座の PR、人形劇の普及に寄与した。</p>	<p>12/7、2/5</p> <p>延べ 911 人（網走）</p> <p>延べ 300 人（稚内）</p>

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
公演事業	<p>「やまびこ座プロデュース公演」</p> <p>やまびこ座が行っている演劇に関する育成事業の集大成の場として、東区市民劇団「オニオン座」、遊劇舎、劇☆やまびこ座 YOUTH の子どもから大人までが参加する、東区を題材とした演劇を企画・制作した。専門のアーティストと協働して、ワークショップを重ねながら芝居を創りあげ、観客から好評を得た。</p>	<p>11/8～3/28 延べ 944 人</p>
その他事業	<p>「福島県への継続文化支援活動 2016」</p> <p>活動協会の全体事業として、被災地への支援を継続的に行った。やまびこ座、こぐま座においては、福島県の支援を中心に人形劇、伝統人形芝居等の公演活動のほか、地域交流イベントやワークショップなど地域参加型の企画、実施した。児童会館などとの課を超えた取り組みによって大きな成果を得た。</p> <p>①GW チャリティー公演 ②福島支援人形劇公演及び地域交流イベント、人形浄瑠璃体験ワークショップ他 ③募金箱設置</p>	<p>①5/3～5/5 ②5/19～3/27 ③通年 延べ 5,242 人</p>



②こぐま座

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
公演事業	<p>「夏の特別公演」</p> <p>こぐま座開館 40 周年を記念し、やまびこ座・こぐま座両劇場にて特別公演を実施。普段観劇することの少ない道内外の専門人形劇団を招待し、札幌の子どもたちや市民の方々に良質の人形劇を提供した。</p>	<p>7/24～8/2</p> <p>延べ 4,650 人</p>
	<p>「札幌市こども人形劇場こぐま座開館 40 周年記念セレモニー」</p> <p>式典での主催者挨拶（理事長） 来賓参列（専務理事）</p> <p>*板垣副市長も来賓として参列し祝辞を賜った。また、市民が作成した観劇用の座布団の贈呈式では、贈呈された座布団を受け取っていただいた。</p>	<p>7/24</p> <p>延べ 374 人</p>
地域連携事業	<p>「開館 40 周年記念祭かもくま祭」</p> <p>こぐま座開館 40 周年を記念し、中島児童会館、地域団体と連携し、近隣の市民をはじめ、全市に働きかけを行い、多くの市民が楽しみ開館を祝うお祭りとした。</p> <p>今年度は前夜祭も実施。野外巨大人形劇「岩見沢人」を招聘し公演した。</p>	<p>7/9、7/10</p> <p>延べ 1,540 人</p>



平成 28 年度 札幌市こども劇場利用状況報告

■こどもの劇場「やまびこ座」

【利用状況】

区 分	件数 (件)	人数(人)	稼働率
ホール	721	29,602	室利用総人数 50,408
会議室	398	3,021	
研修室	536	9,241	
美術工作室	625	8,544	
ロビー・展示室・図書コーナー	-	11,208	
研修・見学	-	304	
総 利 用 数	2,280	61,920	

利用件数 (前年度 2,069 件・前年比 110.2%)

利用人数 (前年度 59,220 人・前年比 104.6%)

【ホール利用内訳】

観劇者数	無料(人)		1,397
	招待(人)		1,089
	有料(人)		15,019
	合計(人)	・・・(a)	17,505
出演者の数(含むりハーサル)(人)	・・・(b)		12,097
出演者観劇者総数(人)	・・・(a+b)		29,602
上演回数(回)			207
上演日数(日)			144
仕込み・リハーサル・研修日数(日)			159
上演1回あたりの観客数(人)			85

■こどもの劇場「こぐま座」

【利用状況 (ホール利用内訳)】

観劇者数	無料(人)		1,189
	招待(人)		975
	有料(人)		10,094
	合計(人)	・・・(a)	12,258
出演者の数(含むりハーサル)(人)	・・・(b)		4,618
出演者観劇者総数(人)	・・・(a+b)		16,876
研修・見学	・・・(c)		4,005
利用者総数	・・・(a+b+c)		20,881
上演回数(回)			237
上演日数(日)			158
仕込み・リハーサル・研修日数(日)			248
上演1回あたりの観客数(人)			52

利用人数 (前年度 18,662 人・前年比 111.9%)



(3) 企画事業課【指定管理事業：若者支援施設 5 館】

①若者支援総合センター (Youth+センター)

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
自立支援事業	「自立支援プログラム (仕事体験：ジョブトレーニング)」 就労のイメージを具体化し、目標・行動を明確にしていくことを目的とし、事業所の協力のもと、職場見学や3日から3週間程度の仕事体験を実施した。成果として、サポート企業の紹介による新たな事業所の開拓や活動機会の提供などがみられた。参加した若者にとっては体験活動を通じて、働くことへの抵抗感が減り、継続雇用に至る機会となった。	通年 延べ 1,906 人
交流促進事業	「クラウドファンディング講座」 クラウドファンディングという近年注目されている資金調達方法のセミナー・ワークショップを実施した。社会的活動を志向する若者層への訴求効果が見られた。また、ロビー利用者や自習生も事業へ巻き込む工夫を行い、クラウドファンディングに興味のない若者への興味・関心を喚起させる機会となった。	2/5 30 人

②アカシア若者活動センター (Youth+アカシア)

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
交流促進事業	「アカシア演劇指南塾 2nd season」 高校生から社会人までの若者が参加。「卒業公演」という共通の目標のもと稽古に励んだ。講師を務める地域若者サポーターのほか、ゲスト講師として多数の演劇人が参加し、若者支援施設の理解者を増やすことができた。	11/15～3/12 延べ 258 人
社会参加促進事業	「Youth+アカシアリニューアルイベント『O・MA・TA・SE party』」 休館後のオープニングイベントとして施設利用者によるステージイベントを実施。若者団体から一般団体まで幅広い層が参加し、活動の成果発表を行った。普段は別々に活動している利用者が顔を合わせる機会となった。	11/3 126 人

③ポプラ若者活動センター (Youth+ポプラ)

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
社会参加促進事業	「白石区ふるさとまつり」 白石区と連携し、白石区ふるさとまつりにおける露店やステージイベントの企画、運営などを行う「若者プロジェクト」を結成。若者が地域住民と共に「街づくり」に参画、意見表明することで、異世代交流・相互理解を深め、地域の担い手となる人材育成をめざした。	5/18～8/2 延べ 250 人
交流促進事業	「ガクシヨク事業」 若者活動センター利用のきっかけづくりとして中高生を対象に無料で食事の提供を行った。また、まなべえの実施日時の前の時間帯に行うことで生活困窮家庭の若者支援もかねた。2 月には、白石区保健センター「本気めしプロジェクト」と協働し、高校生が考案して調理したメニューを提供するとともに、朝食や野菜をしっかりととることの大切さなどの講話や食事に関するアンケートを実施した。	10/12、10/26 11/ 9、12/7 1/25 、2/22 3/13 、3/18 延べ 136 人

④豊平若者活動センター (Youth+豊平)

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
その他事業	「超まちフェス 2」 まちづくり活動に関っている若者団体による活動の成果発表、ステージ発表、トークショー、パネル展示などを内容としたイベントを開催した。	1/7 1,375 人
交流促進事業	「若者舞台芸術祭 Sapporo MixArt」 札幌近郊で演劇活動をしている高校生から社会人までの若者を中心に、音楽、ダンス、演劇などさまざまなジャンルを融合し、舞台芸術祭を開催した。	3/11、3/12 延べ 365 人

⑤宮の沢若者活動センター (Youth+宮の沢)

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
社会参加促進事業	「宮の沢若者活動センター祭」 大学生を中心に実行委員会を構成し、ステージコーナーや屋台等を設置したお祭りを開催した。ステージでは若者によるバンド演奏やダンスの発表、屋台では実行委員会が考えたジンギスカン丼などを提供した。また、当日は 100 人を超える大学生ボランティアを中心に運営を行った。	8/20、8/21 延べ 4,889 人
交流促進事業	「交流促進講座『make a trigger』」 大学生と出演者で構成する実行委員会を作り、7 組の出演者で音楽・ダンスパフォーマンスイベントを開催した。成果発表以外にも、実行委員会で集客数の目標を立てて広報を行い、達成感につなげることができた。	2/25 85 人

平成28年度 若者支援施設利用状況

(人)

内訳	総合	アカシア	ポプラ	豊平	宮の沢	合計
自立支援事業	16,259	0	0	42	0	16,301
若者	10,627	0	0	36	0	10,663
一般	5,632	0	0	6	0	5,638
交流促進事業	1,117	1,564	924	1,356	1,127	6,088
若者	1,102	1,396	720	1,222	1,020	5,460
一般	15	168	204	134	107	628
社会参加事業	670	1,749	2,451	5,245	5,824	15,939
若者	642	960	2,401	3,321	4,144	11,468
一般	28	789	50	1,924	1,680	4,471
ロビー事業	19,588	3,691	6,748	10,280	15,565	55,872
若者	19,032	3,326	6,146	7,569	12,988	49,061
一般	556	365	602	2,711	2,577	6,811
貸室利用	32,739	31,140	12,575	34,566	64,352	175,372
若者	28,651	26,313	7,919	28,284	37,038	128,205
一般	4,088	4,827	4,656	6,282	27,314	47,167
合計	70,373	38,144	22,698	51,489	86,868	269,572
若者	60,054	31,995	17,186	40,432	55,190	204,857
一般	10,319	6,149	5,512	11,057	31,678	64,715
(各施設前年度比)	110.8%	66.2%	97.0%	107.9%	98.5%	96.1%



(4) 企画事業課【地域活動等事業：野外活動系事業、自主事業：滝野自然学園】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
体験機会創出 事業	「クボタeプロジェクト」 （株）北海道クボタのCSR（社会貢献）事業として、南区の児童会館利用者を参加対象にした農業体験活動。全3回の農業体験や食育、自然体験をとおして、子どもたちが土に触れる体験と作物が育つ喜びを体験し、農業への理解を深める機会とした。	5/22、7/10、9/11 119人
	「夏休み！わくわく親子キャンプ」 小学生とその家族を対象とした自然体験活動事業。水辺の活動を中心とした野外活動を楽しみながら、家族の絆を深める機会とした。	8/5～8/8 95人
	「サマーチャレンジ！カヌーキャンプ」 児童会館利用児童の小学2・3年生を対象とした自然体験活動事業。学校や家庭を離れ、カヌーを中心としたさまざまな野外活動を通じ仲間と協力しながら活動に挑戦する機会を提供した。	8/9、8/10 37人
その他指導事業	「なかよしキャンプ」 年長児と小学生（4・5年生）を対象にした通年5回の自然体験活動。年長児は自然への興味関心の促進と、集団行動に慣れることを目指し、小学生はグループ活動を行う中での役割の認識、大変なことや少し億劫なことへ向き合う粘り強さを身に付ける機会とした。	6/18～2/5 109人
	「冬休み宇宙科学探検隊」 世界の最先端技術に触れる機会を提供することを目的とした小学生の体験活動事業。事前と事後を含めた当日進行とグループ活動の中で、子どもたちの学びを促進するプログラムを実施した。	12/11、1/11 1/12、1/22 20人

平成28年度 滝野自然学園 利用集計(延べ)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	4	499	446	1,373	1,120	489	662	236	181	999	415	489	6,913
団体数	1	8	8	32	23	14	15	8	8	24	11	13	165

前年度比 延べ人数： 107.8% （前年度人数 6,410）
 団体数： 157.1% （前年度団体数 105）

(5) 野外活動課【指定管理事業：北方自然教育園】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
体験機会創出事業	<p>「農業体験事業」</p> <p>イネおよびナシの収穫体験等を行った。</p> <p>イネについては、ほぼ例年並みの収穫量であり、計画どおりの体験機会を提供することができた。脱穀および精米作業の支援も併せて実施した。</p> <p>ナシについては、春からの袋がけ作業の効果もあり、豊作であったため、充実した収穫体験を提供することができた。</p>	<p>5/10～1/13</p> <p>延べ 3,494 人</p> <p>(延べ 99 校)</p>
	<p>「サクランボ採取体験とジャム作り」(収穫・創作活動)</p> <p>園内で採取されたサクランボを活用したジャム作り体験会を実施し、活動をとおして収穫する喜びと素材の活用方法を提案した。</p>	<p>7/9、7/10</p> <p>32 人</p>
学習支援事業	<p>「冬休み家族工作教室～蚕のまゆ工作編」</p> <p>北方自然教育園で飼育していた蚕のまゆを用いた工作をとおして、自然についての関心や親しみを深める機会を提供することができた。まゆについては、初めて見たり触れたりする参加者が多く、驚きと興味を持ちながら体験を進めていた。</p>	<p>1/7、1/8</p> <p>33 人</p>
	<p>「家族で作る自然素材の新年のしめ飾り作り」</p> <p>スゲや園内で採集されたさまざまな自然素材を用いたしめ飾り制作を行った。</p> <p>作業をとおして園内の豊かな自然環境を感じ、創作する楽しさを体験し、伝統文化に触れる機会を提供することができた。</p>	<p>12/17、12/18</p> <p>35 人</p>
地域活連携事業	<p>「白川市民の森 スノーシューウォーキング」</p> <p>白川市民の森にて、動物の痕跡や樹木の冬芽を観察しながらスノーシューで森林内を歩き、身近な札幌の自然にふれ合う機会を提供した。参加者は札幌の自然環境の豊かさを再認識している様子であった。</p>	<p>2/5</p> <p>2 人</p>

平成28年度 札幌市北方自然教育園 月別利用状況一覧表

2017/3/31現在

月	施設利用							体験農場								自然体験学習会	自然ふれあい事業	その他事業等(ボランティア等)	事業	合計								
	学校・園		一般				小計		学校・園				小計		組数					人数	組数	人数	組数	人数				
	校数	人数	団体	個人	人数計	団体	人数	畑		水田		梨		サクランボ														
								校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数											人数			
4	0	0	2	22	163	185	2	185	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	28	2	28	4	213	
5	3	118	3	375	569	944	6	1,062	3	118	0	0	0	0	0	0	3	118	30	100	10	10	0	9	40	119	49	1,299
6	21	1,315	1	7	282	289	22	1,604	1	27	19	1,208	0	0	1	80	21	1,315	10	35	0	0	0	231	10	266	53	3,185
7	6	312	2	23	497	520	8	832	0	0	0	0	0	6	312	6	312	25	88	12	32	1	14	38	134	52	1,278	
8	4	208	3	80	437	517	7	725	2	83	0	0	0	0	0	2	83	39	129	0	0	3	65	42	194	51	1,002	
9	11	706	12	276	369	645	23	1,351	3	128	7	420	0	0	0	10	548	8	25	0	0	0	10	8	35	41	1,934	
10	19	1,046	7	228	332	560	26	1,606	0	0	12	780	7	266	0	19	1,046	0	0	8	17	0	15	8	32	53	2,684	
11	24	119	0	0	73	73	24	192	0	0	23	47	0	0	0	23	47	5	10	10	10	0	13	15	33	62	272	
12	13	21	1	11	31	42	14	63	0	0	13	21	0	0	0	13	21	14	35	0	0	0	4	14	39	41	123	
1	2	4	0	0	68	68	2	72	0	0	2	4	0	0	0	2	4	10	33	4	8	0	1	14	42	18	118	
2	0	0	0	0	60	60	0	60	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	9	16	0	3	11	21	11	81	
3	0	0	0	0	118	118	0	118	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	30	4	48	14	78	14	196		
合計	103	3,849	31	1,022	2,999	4,021	134	7,870	9	356	76	2,480	7	266	7	392	99	3,494	143	457	63	123	10	441	216	1,021	449	12,385

(6) 野外活動課【指定管理事業：定山溪自然の村】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
体験機会創出 事業	「昆虫博士キャンプ」 北海道大学昆虫研究会から講師を招き、野外活動体験を通じて親子で自然と親しみ、発見する喜びや楽しさを感じる機会となった。また観察した内容を自由研究活動等の素材となるよう支援し、今後の学習機会を提供するよう努めた。	7/30、8/3、8/6 87人
	「定山溪森のようちえん」 冬季実施の森のようちえんについては、スノーチューブ滑りやスノーシューハイキング等、参加者がシーズン最後の雪遊びを楽しむ機会となるよう計画、実施した。参加者からは「この季節にしかできない自然遊びをたくさん体験することができた」等の声をいただいた。	①6/19、6/20 ②7/18、7/19 ③8/21、8/22 ④9/19、9/20 ⑤10/16～10/17 ⑥11/20、11/21 ⑦12/18、12/19 ⑧2/19、2/20 ⑨3/20、3/21 延べ151人 (48組)
	「ようこそ北海道ファミリー」 道外から移住してきた家族向けに、かまくら作りやスノーシュー体験を実施した。初めて北海道での冬を迎えた家族が多く、雪を使ったさまざまな遊びに対し、大変満足いただけた様子であった。	5/8、12/4 1/29、2/26 延べ102人 (25組)
地域連携事業	「定山溪ウインターキャンプフェスティバル」 野外での映画上映を行い、冬の野外活動に興味をもっていただく機会とした。キャンプや野外アクティビティに興味を持つ家族等、小グループが多く訪れ、スノースクリーンで映像を楽しんでいた。	1/21、1/22 258人
人材育成事業	「森もりレンジャー」 石狩森林管理署と事業協定を締結している「定山溪遊々の森」を活用し、間伐体験や植樹体験などをおして家族単位での森づくり体験をした。また当事業での活動を通じ、参加家族に自然について興味・関心を持っていただくとともに、家族単位でのボランティア意識を醸成する機会とした。	5/22、6/19 7/24、8/11 9/25、2/5 延べ150人 (50組)
活動支援事業	「ボランティア自主企画事業『ヴィレッジ・クリスマス2016』」 自然の村のボランティアスタッフが中心となってアイスキャンドル作り、特別工作会、プレゼント配付等のプログラムを実施した。また、参加者がサンタクロースに仮装し楽しむ姿も見られた。	12/3～12/25 延べ316人

【平成28年度施設利用状況】

<利用件数>

(件)

区分	平成28年度	平成27年度	前年度比
コテージ	2,443	2,323	105.1%
テントハウス	993	892	111.4%
テントサイト	1,998	1,764	113.3%
合計	5,434	4,979	109.2%

<利用人数>

(人)

区分	平成28年度	平成27年度	前年度比
コテージ	9,389	9,131	102.9%
テントハウス	4,327	3,981	108.7%
テントサイト	5,057	5,023	100.7%
見学者	467	710	65.8%
合計	19,240	18,845	102.1%



(7) 野外活動課【指定管理事業：青少年山の家】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
体験機会創出 事業	<p>「トライキャンプ」</p> <p>大自然の中での体験活動をとおして、挑戦する気持ち、仲間を大切に作る心、生きる力を育むことを目的に実施。小学校4～6年生を対象に洞爺湖周辺のキャンプ場で5泊6日を過ごした。長期間仲間と一緒に生活することで、参加者一人ひとりの成長を実感することができた。</p>	<p>7/27～8/1</p> <p>24人（4泊5日）</p>
	<p>「防災サバイバルキャンプ」</p> <p>『防災』をテーマに、便利な暮らしを見つめ直し、生きる力を育むことを目的として実施した。毎回、『水害、風害、火事、雪害、地震』と北海道で起こりうる身近な話題を取り上げた。また、学んだことを家庭に持ち帰れるようノートなどで工夫した。（年5回実施：第3回、第5回は宿泊）</p>	<p>① 6/11 23人</p> <p>② 8/27 26人</p> <p>③ 10/22、23 17人</p> <p>④ 12/3 24人</p> <p>⑤ 2/11、12 16人</p> <p>〔合計〕 106人</p>
	<p>「はじめてのスキーキャンプ」</p> <p>小学校低学年を対象に、スキーと雪をテーマで、生きる力を育むことを目的に実施した。SPAC滝野管理センターに協賛していただいた。グループ活動をとおして、仲間を思いやる気持ちや協調性などの成長が見られた。</p>	<p>1/7～9</p> <p>40人（2泊3日）</p>
	<p>「自然観察ハイキング」</p> <p>大人を対象に四季折々の自然と親しむ機会を提供することを目的に実施した。滝野すずらん丘陵公園内のハイキングコースを使用し自然観察会を行った。また、毎回自然素材を活用したイタヤカエデの樹液紅茶などの提供を行い好評であった。（年5回実施：第2回は荒天により中止）</p>	<p>① 5/15 21人</p> <p>② 6/26 （中止）</p> <p>③ 9/4 20人</p> <p>④ 10/2 28人</p> <p>⑤ 2/19 22人</p> <p>〔合計〕 91人</p>
	<p>「親子でいち・に・さんぽ」</p> <p>親子を対象に自然と触れ合う機会を提供することを目的に実施した。子どもだけではなく、保護者も一緒になって想像しながら自然遊びを行えるプログラムを展開し、日常生活につながる内容を心がけた。（年5回実施：第2回は荒天により中止）</p>	<p>① 5/15 6組 17人</p> <p>② 6/26 （中止）</p> <p>③ 9/4 8組 21人</p> <p>④ 10/2 6組 20人</p> <p>⑤ 2/19 6組 15人</p> <p>〔合計〕 26組 73人</p>

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
人材育成事業	<p>「ボランティアスタッフ活動支援」</p> <p>大学生、専門学校生を対象に、子どもたちの活動を支援するボランティア指導者を養成することを目的に実施した。講話と体験活動を行い、最終回は児童と触れ合う機会を提供した。</p> <p>(全4回：第2回、第4回は宿泊)</p>	<p>① 11/30</p> <p>② 12/10、12/11</p> <p>③ 1/26</p> <p>④ 2/11、2/12</p> <p>受講者7人</p> <p>延べ参加者数21人</p>

平成28年度札幌市青少年山の家利用状況

主催者	項目	累計		
		団体数	実利用者数	延利用者数
学校	幼稚園等	30	1,117	2,067
	小学校	364	23,176	39,237
	中学校	77	5,701	7,540
	高校	18	1,295	2,947
	盲聾養護学校	0	0	0
	専門学校	4	99	191
	大学	2	30	46
	その他の学校	1	6	12
青少年団体	少年団体	104	5,269	9,673
	青年団体	24	908	1,738
指導者団体	学校教育関係	3	106	148
	社会教育関係	3	160	315
	親子	10	171	296
	官公庁	36	2,493	4,620
	その他	83	2,504	4,316
	主催事業	26	836	988
	計	785	43,871	74,134
	前年度	781	42,680	73,707
	前年比	100.5%	102.8%	100.6%

(8) 市民参画課【指定管理事業：札幌エルプラザ公共4施設】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
活動支援事業	<p>「ガールズ相談」</p> <p>若年層の女性に向けた相談窓口を試行的に設置した。 人間関係、学校、家庭での悩みなど若年層女性に特有の悩みについてLINEや電話などで相談に応じた。</p>	<p>8/25～9/7</p> <p>希望：延べ872人 完了：延べ99人</p>
	<p>「子どもボランティア体験プログラム『ボランティア体験隊!』」</p> <p>市民活動団体を受け入れ先とし、子どもたちがボランティア体験をとおして、社会参加意識の醸成と社会的課題への気づきの機会として実施した。</p>	<p>7/23～8/10</p> <p>延べ63人</p>
	<p>「サロン事業」</p> <p>各回話題提供者（市民活動団体）を招き、協働の基礎となる市民活動団体の交流と情報交換の機会を提供した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・盲導犬と共に生きるということ（4月） ・思春期に寄り添うお手伝い（7月） ・しみサポ・えんにち（9月） ・ハッピーなエンディングを目指して ～自分のために家族のために～（10月） ・笑顔いっぱい！夢ある未来 ～『子ども食堂の活動から見えてくるもの』～（2月） 	<p>4/27～2/18</p> <p>延べ236人</p>
	<p>「お家で楽しむ ゆるカフェ講座」</p> <p>環境に配慮したライフスタイルを提案し、有機栽培やフェアトレードといった製品を扱う企業や団体を支援する意識を持ってもらうために、コーヒー、ハーブティー、日本茶の入れ方、楽しみ方を体験する講座を開催した。</p> <p>①コーヒー ②ハーブ ③日本茶</p>	<p>①1/15②1/22③1/29</p> <p>延べ61人</p>
	<p>「マチなか×NPO」</p> <p>市民活動団体による販売、ワークショップ等の出展、ステージ発表をとおして活動のPRを行うとともに、寄付月間キャンペーンの一環として、パネル展や先行イベントを実施した。実施にあたっては、出展団体による実行委員会を組織し、出展内容などの方法について検討を行った。</p>	<p>12/14、12/15、12/16</p> <p>延べ9,706人</p>

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
人材育成事業	「先生のための環境プラザ見学ツアー&地域教材の研究」 環境プラザや環境関連団体の教材に触れ、地域教材の可能性を研究することを目的に実施し、学校教育現場での活用について考えた。	8/9 17人
	「児童・生徒への学習機会の提供『幌北小学校への出前授業』」 子どもたちが自ら課題を見つけ、学び、考え、主体的に判断し、よりよく課題を解決する資質や能力を育成するきっかけをつくることを目的に実施した。	9/15 52人
	「コミュニティ学習会『アクションプラン研修』」 女性社員を対象に、管理職候補の女性人材を育成することを目的に実施した。自己肯定感を高めるプログラムを取り入れ、仕事で成果を上げるための目標設定や計画づくりを支援した。	7/8、7/26、8/9 延べ51人
	「北海道女性起業支援ネットワーク」 女性起業家を支援するネットワークを形成し、札幌市および北海道内の女性起業家の創出・成長を目的に、多様な女性のニーズに応じた支援策を受け入れられるように各機関の支援体制を構築した。	8/23 30機関
	「男性のためのエンパワーメント事業 『働き方改革さっぽろ大円卓会議』」 男性の長時間労働削減や仕事と家庭の両立の実現をとおして、あらゆる女性が活躍できる環境整備について考えることを目的に実施した。	11/5 35人
	「寄付月間キャンペーン『寄付ってなあに？～寄付の教室』」 NPO法人ファンドレイジング協会北海道チャプターの協力のもとに、子どもたちがNPOや寄付の意味を学び、応援したいNPO団体を選んで発表を行った。	11/26 7人
	「ブックトーク『営業部女子課×Google Women Will×情報センター 営業部女子課と考える未来の働き方』」 女性営業職の活躍を拓げることで、男女ともに輝きながら働ける社会創造を目指している営業部女子課と、テクノロジーを活用して柔軟な働き方を目指す Google Women Will と協働で、女性が活躍できる未来の働き方について考える機会の提供を目的に実施した。	2/18 28人

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
地域連携事業	<p>「エルプラまつり 2016」</p> <p>「エルプラ de ミラクル」をテーマにエルプラまつりに参加する多種多様な活動・団体がコラボレーションすることで新しい発見を生み出すことができた。</p>	<p>9/10</p> <p>7,607 人</p>
	<p>「キャンドルナイト」</p> <p>『1 年中で一番昼が長い夏至の日みんなで一斉に電気を消して、スローな夜を過ごそう』という 100 万人のキャンドルナイトの趣旨に賛同し、「星」をテーマに、夏至の日の夜空にある星座や惑星についての話とハーモニカアンサンブルの演奏会を楽しんだ。</p>	<p>6/21</p> <p>106 人</p>
情報発信事業	<p>「情報発信講座」</p> <p>広報の課題解決を目的としたセミナー等を行い、具体的なニーズを把握し、市民活動団体がより効果的な情報発信を行うこと、また参加を通じて同じ課題を抱える団体同士の情報交換、共有、交流が生まれることを目的に実施した。</p>	<p>11/29、1/28</p> <p>54 人</p>
	<p>「図書関連制作活動事業」</p> <p>情報センターの存在を周知し4分野に関する興味関心を持ってもらうきっかけをつくることを目的として実施した。また、同時に参加者同士の交流の場の提供を行った。</p>	<p>10/29、3/12</p> <p>34 人</p>
	<p>「学習スペース@ジョーセ」</p> <p>広く学生に情報センターの存在を周知すること、それをきっかけに4分野へ興味を持ってもらうことを目的として、学生を対象とした学習スペースを提供した。</p>	<p>①7/27～9/30</p> <p>②12/17～1/30</p> <p>③3/1～3/31</p> <p>延べ 288 人</p>



平成28年度 札幌エルプラザ公共4施設利用状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	
セ ン タ ー ※	施設利用	件数 2,563	2,631	2,881	2,872	2,536	2,838	2,719	2,878	2,376	2,384	2,652	2,799	32,129	
	相談事業	人数 29,649	29,221	30,872	33,836	28,273	32,168	27,667	31,260	26,634	26,934	29,476	29,977	355,967	
	視察・見学	件数 0	0	0	0	1	2	0	2	0	0	0	0	5	
	施設外事業	件数 0	0	0	1	1	2	0	0	2	0	1	1	8	
		人数 0	0	618	70	118	0	0	167	0	0	13	7	993	
	計	件数 2,563	2,631	2,882	2,873	2,539	2,840	2,719	2,882	2,376	2,384	2,653	2,800	32,142	
セ ン タ ー	施設利用	件数 319	283	462	347	338	339	347	312	317	301	313	326	4,004	
	相談事業	人数 2,725	2,948	4,898	4,016	3,615	3,624	3,657	3,716	3,691	2,956	3,445	3,442	42,733	
	視察・見学	件数 0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	施設外事業	件数 0	0	0	23	0	0	0	0	0	0	0	0	51	
		人数 319	283	463	348	338	339	347	312	317	301	313	326	4,006	
	計	件数 3,701	3,945	6,034	5,019	4,673	4,597	4,609	4,698	4,641	3,921	4,528	4,594	54,960	
セ ン タ ー	施設利用	件数 1,736	1,726	1,752	1,624	1,501	1,611	1,702	1,612	1,480	1,444	1,651	1,816	19,655	
	相談事業	人数 5,624	5,267	5,416	4,963	4,603	5,217	5,002	5,100	4,335	4,577	5,173	5,584	60,881	
	視察・見学	件数 32	32	40	40	28	32	31	43	24	41	63	75	481	
	施設外事業	件数 1	0	0	1	1	3	1	4	0	1	1	0	13	
		人数 1	0	0	15	2	15	1	43	0	1	1	0	79	
	計	件数 1,737	1,726	1,752	1,625	1,502	1,614	1,703	1,616	1,483	1,445	1,652	1,816	19,671	
環 境 プ ラ ザ	施設利用	件数 195	198	201	200	198	220	183	200	122	168	175	206	2,266	
	相談事業	人数 2,566	2,360	2,733	2,786	2,302	2,507	1,808	2,336	1,681	2,363	2,106	2,447	27,995	
	視察・見学	件数 4	3	2	10	4	21	2	9	2	3	3	4	67	
	施設外事業	件数 0	1	4	3	7	2	4	3	2	3	0	6	35	
		人数 0	33	182	138	256	41	85	141	92	139	0	193	1,300	
	計	件数 2,571	1,895	2,923	4,371	3,710	3,814	2,616	2,730	3,565	2,946	2,373	3,151	36,665	
公 共 4 施 設 計	施設利用	件数 4,813	4,838	5,296	5,043	4,573	5,008	4,951	5,002	4,295	4,297	4,791	5,147	58,054	
	相談事業	人数 40,564	39,796	43,919	45,621	38,793	43,516	38,134	42,412	36,341	36,830	40,200	41,450	487,576	
	視察・見学	件数 1,070	1,092	1,217	1,082	1,137	1,083	1,041	1,087	1,026	1,052	1,197	1,288	13,372	
	施設外事業	件数 1	1	5	5	9	7	5	9	2	4	1	6	55	
		人数 1	33	205	181	262	97	86	218	92	140	1	193	1,509	
	計	件数 2,571	1,895	2,923	4,371	3,710	3,814	2,616	2,730	3,565	2,946	2,373	3,151	36,665	
情 報 セ ン タ ー	施設利用	件数 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	相談事業	人数 0	16	0	419	0	10	20	442	247	0	63	16	1,233	
	視察・見学	件数 0	0	1	5	5	4	4	4	3	3	6	1	36	
	施設外事業	件数 0	0	618	218	236	533	154	202	9,871	976	309	7	13,124	
		人数 0	0	618	218	236	533	154	202	9,871	976	309	7	13,124	
	計	件数 4,814	4,839	5,302	5,053	4,587	5,019	4,960	5,015	4,300	4,304	4,798	5,154	58,145	
		人数 44,206	42,832	48,882	51,892	44,138	49,053	42,051	47,091	51,142	41,944	44,143	46,105	553,479	
		※消費者センター施設利用、相談事業件数に関しては消費者協会分を含む													
情報センター		人数	6,679	6,635	7,417	7,258	7,769	8,685	10,541	7,224	6,968	6,743	12,396	7,796	96,111
平成28年度札幌エルプラザ公共4施設総利用者数			50,885	49,467	56,299	59,150	51,907	57,738	52,592	54,315	58,110	48,687	56,539	53,901	649,590



(9) 企画事業課【地域活動等事業：自主事業、受託事業】

事業区分	事業名	時期・回数・参加人数等
企画提案事業	「さっぽろ水道記念館秋まつり」 遊びや学びをととした水道事業の啓蒙及び喚起・PR機会として開催された「秋まつり」（主催者：水道局他）の企画選考会に参加のうえ、受託、実施した。	9/24、9/25 8,460人
自主企画事業	「円山動物園事業『Zooナイトキャンプ2016・冬』」 「マレーグマ」「こども動物園」「エゾヒグマ」の3テーマのもと、専門家である飼育員の案内で各グループ活動を宿泊をととして実施した。環境保全についての意識を高める機会を提供した。	1/12、1/13 17人
受託型事業	「『第68回さっぽろ雪まつり』つどいむ会場すべり台等制作・運營業務」 3基のすべり台制作は、知識と技術の蓄積により順調に完成させた。開催期間中の運営については、ボランティアや外部スタッフの円滑な連携を行い、安全な運営管理を行った。	1/5～2/12 期間中來場者総数 723,000人
	「UHB みんなの収穫祭」 テレビ局主催、番組とのタイアップによる大規模イベントにおいて、子ども・親子が直接体験できる「縁日・ゲームコーナー」の企画・運営を担当した。	9/17、9/18 延べ100,000人
	「下水道科学館フェスタ2016」 下水道事業への理解を深めることを目的にした公共施設の賑わいイベント。イベント全体の企画運営、管理業務を行った。	9/10、9/11 10,568人
	「『未来を守ろうプロジェクト』運營業務」 若者たちによる「子宮頸がんに関する普及啓発プロジェクト実行委員会」より運營業務を受託。若い世代の子宮頸がんに対する関心を高め、早期発見、早期治療による重症化の予防につなげることを目的に実施した。	6/1～3/31 60人
	「白石区青少年まちづくり活動促進事業 “区民協働スペース活用イベント企画運營業務”」 新規受託事業。「青少年に発表の場を提供する芸術文化イベント」「他都市の青少年と連携する地域活性化イベント」のもと、“まちづくり”の要素を取り入れたプログラムを展開した。	11/18～3/11 延べ800人

(10)その地 地域活動等事業等（こども育成事業、財団連携事業）

事業区分	事業名	時期・回数・参加人数等
<p>学習支援事業</p>	<p>「まなびのサポート事業『遊學舎 まなべえ』」</p> <p>学習に対する取り組みだけでなく、日常活動においてもさまざまなプログラムを展開し、自己肯定感を高める仲間づくりを進めることで、週1回の時間を励みにしている中学生も多く、各会場の出席率も上がった。また、学習支援サポーターもこの活動に熱心に取り組んでおり、学内で自身の活動成果を発表するなど、大学生自体の成長にも繋がっていた。学習以外の困難や高校中退に至ってしまうなどの課題にも対応するため児童会館に留まらず若者支援施設事業への連続性を意識した取り組みもさらに強化する。今年度は市民の関心も高く、12月に全会場に市民からのクリスマスケーキの寄贈があり楽しい時間を過ごすことができた。</p>	<p>6月～3月</p> <p>会場 40会場</p> <p>登録人数：618人</p> <p>学習支援</p> <p>サポーター登録</p> <p>延べ 279人</p>
<p>人材育成事業</p>	<p>「インタープリターズキャンプ in 札幌」</p> <p>環境教育の第一線で活動している講師を招き、アクティビティ実践と振り返りによりインタープリテーションの本質を学ぶ事業を実施した。野外活動課、企画事業課、市民参画課とで横断的に事業を実施し、当財団の持つスケールメリットを活かす、今後の事業に向けた新たなスタイルとなった。</p>	<p>10/22、10/23</p> <p>30人</p>



6. 重要な契約に関する事項

(1) 地域活動等事業

(千円)

契約の概要(業務名)	相手方	契約金額
札幌まなびのサポート事業委託業務	札幌市長	44,604
さっぽろ若者サポートステーション事業	厚生労働省 他	32,623
岩見沢地域若者サポートステーション事業	厚生労働省 他	14,611

(2) 指定管理事業

契約の概要(業務名)	相手方	契約金額
札幌市児童会館及び札幌市こども人形劇場管理業務	札幌市長	2,963,314
札幌市こどもの劇場やまびこ座管理業務	札幌市長	43,194
札幌市若者支援施設管理業務	札幌市長	154,732
札幌市定山溪自然の村管理業務	札幌市教育委員会委員長	75,390
札幌エルプラザ公共4施設管理業務	札幌市長	245,609
札幌市青少年山の家管理業務	札幌市教育委員会委員長	126,557
札幌市北方自然教育園管理業務	札幌市教育委員会委員長	29,361

(3) 受託事業

契約の概要(業務名)	相手方	契約金額
札幌市ミニ児童会館管理運営業務	札幌市長	1,655,532
札幌市「放課後子ども館」管理運営業務	札幌市長	13,392
札幌市地域子育て支援拠点事業(児童会館)運営業務	札幌市長	59,662

7. こども基金(スマイルキッズ)

(1) 協力者一覧

寄付金総額 1,393,000 円 全 104 件

【法人】 11 件

寄付者氏名	寄付額
株式会社館野オフィスサービス	50,000
その他	385,000
合計	435,000

【個人】 27 件

寄付者氏名	寄付額
個人寄付者	330,000
合計	330,000

【団体】 66 件

(円)

寄付者氏名	寄付額
札幌南ロータリークラブ	150,000
北区新川地区民生児童委員協議会	40,000
人形劇団ばおばぶ	20,000
腹話術愛好会腹笑会	20,000
新琴似双葉第一町内会	10,000
その他	388,000
合計	628,000

IV. 事務報告

1. 設立年月日 : 昭和 55 年 4 月 1 日

2. 定款に定める目的

この法人は、人とのつながりを通じて青少年の健全育成と青少年女性の社会参加を促進し、魅力あふれる地域社会創造のための主体的な活動を支援することにより、地域社会の発展及び向上を図り、もって豊かな生活の実現に寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1) 青少年の健全育成と社会参加に関する事業
- (2) 社会教育の推進に関する事業
- (3) 市民活動の振興に関する事業
- (4) その他法人の目的を達成するために必要な事業

4. 事務所の状況

主たる事務所 : 札幌市西区宮の沢 1 条 1 丁目 1 番 10 号

従たる事務所 : 札幌市北区新琴似 8 条 1 丁目 1 番 34 号 2 階

5. 役員等に関する事項

(1) 理事

理事長	岡村 龍一	(公財)さっぽろ青少年女性活動協会 理事長
専務理事	今川 道夫	(公財)さっぽろ青少年女性活動協会 専務理事
理事	上田 厚子	(公社)札幌市母子寡婦福祉連合会 理事長
理事	忍 博次	北海道社会福祉協議会 副会長理事
理事	相馬 宏哉	NPO法人ネイチャープログラムデザイン 理事長
理事	前田 元照	(一社)札幌市私立幼稚園連合会 会長

(2) 監事

監事	西田 史明	札幌商工会議所 中小企業相談所 副所長
監事	梅津 太	税理士

[平成 29 年 3 月 31 日現在 計 8 人]

平成 28 年度における理事会は、次のとおり 5 回開催した。

開催年月日	議事事項	会議の結果
平成 28 年 6 月 2 日	【第 12 回理事会】 1 「平成 27 年度事業報告及び附属明細書の承認」 の件 2 「平成 27 年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び附属明細書並びに財産目録等の承認」 の件 3 「定時評議員会の日時並びに目的である事項」 の件 4 「役員候補者」 の件	1 可決 2 可決 3 可決 4 可決
平成 28 年 6 月 23 日	【第 13 回理事会】 1 「理事長及び専務理事の選定」 の件 2 「その他報告」 の件	1 可決 2 報告
平成 28 年 6 月 30 日	【第 14 回理事会】 1 「監事 1 名の選任の件」 の件	1 可決
平成 28 年 11 月 8 日	【第 15 回理事会】 1 「職務執行状況報告」 の件 2 「その他報告」 の件	1 報告 2 報告
平成 29 年 3 月 1 日	【第 16 回理事会】 1 「職務執行状況報告」 の件 2 「平成 28 年度予算の変更」 の件 3 「平成 29 年度事業計画書及び収支予算書等の承認」 の件 4 「平成 29 年度事務局の組織及び運営」 の件	1 報告 2 可決 3 可決 4 可決

(3) 評議員

評議員	大木光恵	NPO法人ふろぐれっしょん	代表理事
評議員	大森義行	札幌市PTA協議会	会長
評議員	加藤喜久子	北海道情報大学	教授
評議員	菊池恒	北海道商店街振興組合連合会	理事長
評議員	小林元治	社会福祉法人札幌市豊平区社会福祉協議会	会長
評議員	濱口登代喜	(公財)北海道青少年育成協会	専務理事
評議員	林美枝子	日本医療大学	教授
評議員	西田充潔	北星学園大学	教授

[平成 29 年 3 月 31 日現在 計 8 人]

平成 28 年度における評議員会は、次のとおり 2 回開催した。

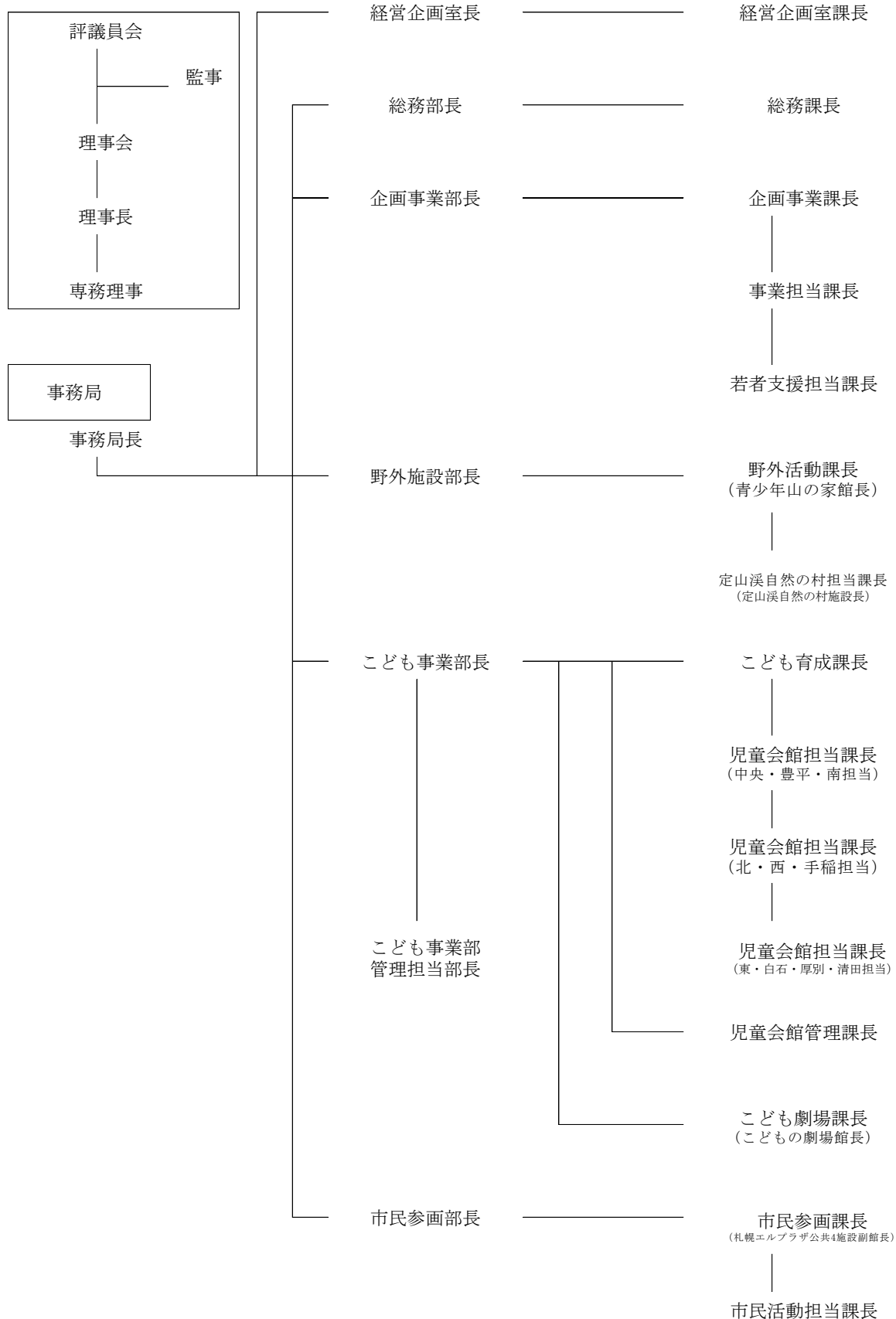
開催年月日	議事事項	会議の結果
平成 28 年 6 月 21 日	【第 4 回評議員会】 1 「平成 27 年度計算書類(貸借対照表及び正味財産増減 計算書)及び附属明細書並びに財産目録の承認」 の件 2 「理事の選任」 の件 3 「評議員の選任」 の件	1 可決 2 可決 3 可決
平成 28 年 7 月 1 日	【第 5 回評議員会】 1 「監事 1 名の選任の件」 の件	1 可決



6. 職員に関する事項（平成 28 年度末現在）

平成 29 年 3 月 31 日現在における事務局組織は次のとおりである。

公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会 機構図



(1) 主要な職員

役職名	氏名	採用年月日	担当職務
経営企画室長	岡本峰子	昭和61年4月1日	財団運営業務の総括
総務部長			総務課業務の総括
企画事業部長			企画事業課業務の総括
野外施設部長	下川原清貴	昭和63年12月14日	野外活動課の総括
こども事業部長	生出裕一	平成元年6月19日	育成課・管理課、劇場課業務の総括
管理担当部長	五十嵐健二	平成元年4月1日	児童会館管理課の総括
市民参画部長	寺田陽子	昭和55年4月1日	市民参画課の総括
経営企画室課長	佐々木勝敏	平成12年4月1日	運営戦略立案・分析業務の総括
総務課長	斉藤隆弘	昭和60年4月1日	総務・財務・労務・経理等の総括
企画事業課長	石井一彦	昭和63年4月1日	企画事業課業務の総括
事業担当課長			自主事業の実施等総括
若者支援担当課長	松田考	平成13年1月1日	若者支援事業の総括
野外活動課長	井崎光男	昭和59年9月9日	青少年山の家の総括
定山溪自然の村担当課長	山田憲克	平成9年7月1日	定山溪自然の村の総括
こども育成課長	会田彰仁	平成4年2月1日	児童会館運営に関する総括
児童会館担当課長	斉藤美季	平成5年6月1日	児童会館（中央・豊平・南担当）
児童会館担当課長	齋藤隆仁	昭和59年4月1日	児童会館（西・北・手稲担当）
児童会館担当課長	蓮井潤子	平成4年4月1日	児童会館（東・白石・厚別・清田担当）
児童会館管理課長	志賀和行	昭和63年2月1日	児童会館管理に関する総括
こども劇場課長	矢吹英孝	平成3年4月1日	こども劇場課の総括
市民参画課長	高橋雅裕	平成8年5月1日	エルプラザ公共4施設業務の総括
市民活動担当課長	佐々木洋一郎	昭和56年4月1日	市民活動に関する調整

(2) 職員数

主任指導員	162人	サポートスタッフ	138人
指導員	489人	臨時職員	93人
専門指導員	89人	パートタイム職員	742人
再任用職員	7人		
合計			1,720人
内常勤職員数	885人	内非常勤職員数	835人

7. 会計に関する事項

公認会計士の関与の有無

監査契約締結（「独立監査人の監査報告書」：平成29年5月24日受理）

